HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新漢語「発展」の成立と中国語への受容
Author(s)	畢, 亜莉
Citation	研究論集, 20, 135（左）-152（左）
Issue Date	2021-03-31
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.20.l135
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80792
Type	departmental bulletin paper
File Information	09_rjgshhs_20_p135-152_l.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgshhs.20.l 135

新漢語「発展」の成立と中国語への受容[1]

畢　　亜莉

要　旨

「発展」という言葉は日中同形語であり，「社会発展」「経済発展」「歴史発展」のように現代日本語と中国語で日常的に使われている。しかし，「発展」が日本人の造語であるか中国人の造語であるか，日中の間でどのように交流があったかに関する論考はまだ見当たらない。本稿は近代における日中両方の辞書類とコーパスを通して調査し，その辞書記述と当時の使用実態を明らかにした。結果として，「発展」は「日本語借形語」である。つまり，「発展」は明治初期に日本人によって創られ，明治期の雑誌や新聞，英和辞書を通して，中国に輸入された。そして，1912 年に中華民国の成立に伴い，国家のインフラ整備を整える必要のため，「発展」もこの時期に頻繁に使われるようになった。社会情勢が，「発展」の中国での定着に大きな影響を与えたと考えられる。

1．はじめに

「発展」という言葉は日中同形語として「社会発展」，「経済発展」，「歴史発展」[2] のように現代日本語と中国語で日常的に使われている。陳（2019：301）では，「発展」は「日本語借用語[3]」

1　陳（2019：8-12）では，「一般に「新漢語」の言い方は「洋学資料」によって裏付けられることがあるが，そこから得た語は一方では「訳語」という概念にも重なる。「新漢語」と関わっている概念は少なくとも由来から見てさらに「近世中国語」，「訳語」，「和製漢語」に分けられる。」と指摘している。

2　中国語の例は「語料庫在綫」（現代漢語語料庫検索）による。日本語の例は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」による。

3　陳（2019：295）では，日中同形語に，日本からの借用語を「中国の古典語を用いて外来概念を訳すための転用」「日本語由来」に限定し，「発展」が「日本語由来」に属する。

と指摘されている。さらに，沈（2019：273）では，「発展」は「日本語借義詞[4]」の類にリストされており，常（2014：78）には，「発展」は「古代漢籍に典拠なし」の類にリストされた。そのほか，発表された中国語における外来語研究に関する論考の中では，「発展」は言及されていない。筆者が確認した主要な外来語研究の関連文献は以下のようなものである。

余又蓀 1956『漢語詞彙』[5]
高名凱・劉正埮 1958『現代漢語外来詞研究』
王力達 1958『現代漢語従日語借来的詞彙』
譚汝謙 1977『日本語借用語一覧』
高名凱・劉正埮 1984『漢語外来詞詞典』
馬西尼著黄河清訳 1997『現代漢語詞彙的形成 ── 十九世紀漢語外来詞研究』
荒川清秀 1997『近代日中学術用語の形成と伝播 ── 地理学用語を中心に』
香港中国語文学会 2001『近現代漢語新詞詞源詞典』
朱京偉 2003『近代日中新語の創出と交流 ── 人文科学と自然科学の専門語を中心に』
沈国威 2008 改訂新版『近代日中語彙交流史 ── 新漢語の生成と受容』

では，「発展」は「日本語借用語」であるか。もし，「発展」は「日本語借用語」であるなら，「日本語借義語」であるのか「日本語借形語」であるのか。また，この語はどのように造られ，いつ，どのように中国に伝わり，どのように中国で展開をして行ったのか，本稿ではこれらの点について実証的に明らかにする。

2．古い資料における「発展」

2-1　国語辞書における「発展」

まず，日本の辞書，『大漢和辞典』（1984-86），『日本国語大辞典』第二版（2001）を調べた。『大漢和辞典』に，「発展」は見出し語として取り上げられていたが，その用例は取り上げられていない。『日本国語大辞典』第二版には，以下のような記述がある。（下線が筆者による，以下同様）

---

[4] 沈（2019：272）では，「日语借义词是指词义借自日语的词」（筆者訳：日本語借義詞はその意味が日本語から借りた詞である），「日语借形词就是词形借自日语的词」（筆者訳：日本語借形語はその外形が日本から借りた詞である）と指摘している。

[5] 中国語の資料を引用する際，中国語の漢字を日本語の漢字に書き直す。現在日本で使わない漢字は旧字体で表す。

①物事が進み，ひろがっていくこと。より低い状態から，より高く，より完全に，より分化し，より豊かに，より複雑になっていくこと。勢いや力などが伸びてひろがること。盛んになること。

＊一年有半（1901）〈中江兆民〉附録・猟官は権利なり「然らば則ち我邦憲政の発展は，所謂上之れを援き下之れを推したるの効にして」

＊春潮（1903）〈田山花袋〉六「盛んな恋情の発展」

＊吾輩は猫である（1905-06）〈夏目漱石〉一一「個性の発展といふのは個性の自由と云ふ意味だらう」

＊新西洋事情（1975）〈深田祐介〉「民主主義」夫人，南アにゆく「日本大使館の高官が SAA の後部座席に乗せられてしまって，抗議問題にまで発展したことがあるし」

②異性関係や酒などに耽って遊び歩くこと。（例略）

『日本国語大辞典』第二版に，「発展」は二つの意味が記述されたが，意味②は日本語特有の意味であるために，今度の考察から除外する。本稿は意味①を対象に，考察していく。『日本国語大辞典』第二版に，「発展」について四つの例が取り上げられ，その中の三つは近代[6]の例である。

一方，中国の辞書，『辞源』（1915，1920，1932，1988），『漢語大辞典』（1986-94）を調べてみると，『辞源』（1915，1920，1932，1988）において，「発展」は見出し語としては取り上げられていなかったが，『辞源』（1932）には，「発展教式」が取り上げられている。『漢語大辞典』（1986-94）に以下のような記述がある。

【発展】

①事物由小到大，由簡単到複雑，由低級到高級的変化。（筆者訳：物事が小さいから大きいへ，簡単から複雑へ，低いレベルから高いレベルへ変化する。）

《孽海花》第二八回：“他们兄弟俩，各依着天賦的特性，各自向極端方面去発展。”

毛沢東《関于正確処理人民内部矛盾的問題》一：“矛盾不断出現，又不断解決，就是事物発展的辯証規律。”

劉少奇《論共产党員的修養》五：“全世界的共产主義運動正処在迅速生長和発展的過程中。”

---

[6] 沈（2008：3）に，日本では，「近代」という語は普通，明治維新（1868）から第二次世界大戦終戦（1945）までの期間を指し，中国では，アヘン戦争（1840）を近代史の始まりとし，20 世紀五四運動（1919）までの期間を指す。近代における日中語彙交流の史実を解明するため，「近代」という期間をアヘン戦争の 1840 年から第 2 次世界大戦終戦 1945 年までの間に設定した。本稿は便宜を図るため，その期間を踏襲する。

巴金《探索集・懐念烈文》:“刊物在発展，読者在増多。”
胡采《〈在和平的日子里〉序》:“革命不断前进，事業不断発展。”
②指変化的趋势。（筆者訳：変化の傾向）
魏巍《東方》第五部第十五章：“根据情况発展，晚几天再到前面去。”
柳青《銅墻鉄壁》第十三章：“众人疑心不定地等着発展，渐渐到晌午時光了。”
丁玲《我読〈東方〉》:“従《東方》的七十几万字里，整个抗美援朝戦争的発展，是比較清楚的。”
③拡大。（広がっていくこと。）
巴金《要有个芸術民主的局面》:“我们文艺界当前的主要工作是発展和繁栄社会主義文芸。”
高雲覧《小城春秋》第六章：“不久，秀苇的‘街坊訪問’発展到剣平家里来了。”
权寛浮《牧场雪莲花》:“調到昆仑山牧场去了，帮助塔吉克族同胞発展畜牧业。”
④発揮，施展。（発揮，積極的に活動し，栄えること。）
巴金《関于丽尼同志》:“他的才能没有得到很好的発展，我常常这样想。”
曹禺《北京人》第一幕：“他心地并不算奸悪，回国后，很想大大発展一下。”

『漢語大辞典』（1986-94）では，「発展」が四つの意味に分けて記述されているが，その四つの意味は『日本国語大辞典』の意味①にあてはまる。また，「発展」を例として取り上げているのは，近代である。その中で一番古い例は，清の小説『孽海花』である。『孽海花』は 35 話に渡る小説であり，その第 1 話は 1903 年に刊行した雑誌『江蘇』に掲載された。

2-2　近代語辞書における「発展」

「発展」の古い例について，日本の『明治のことば辞典』（1986），『明治・大正・昭和の新語流行語辞典』（2002），『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』（2007），及び中国の『近現代漢語新詞詞源詞典』（2001），『近現代辞源』（2010）などの近代語に関する辞書を調査した。その結果，『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』（2007）と『近現代辞源』（2010）に，「発展」において以下のような例が見られた。

(1)「社会発展後二漸ク発生スルヲ得シ者ナルコトヲ考フルトキハ」（フェノロサ・明治十一年（一八七八）ころ『政治学講義』三回）
(2)「精神ノ発展ヲ沮折シ，」（明治十三年（一八八〇）七月『愛国志林』八号）
(3)「本分ノ才性ヲ発展サセル可カラス。」（明治十三年（一八八〇）八月『愛国新誌』一号）
(4)「読書ヲ禁シテ心才ノ発展スルノ道ヲ塞キ」（明治十三年（一八八〇）九月『愛国新誌』四号）
(5)「家族主義を十分に発展せしめ」（有賀長雄・明治十六年（一八八三）『増補社会進化論』三）
『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』（2007）

発展 fazhan 拡大（組織，規模等）。
1955 年 6 月《無線電》第 6 期：“最毒辣的是钻进革命陣营，甚至钻到党内来偷窃文件，挑拨离間，利用某些人的弱点，発展反革命組織，进行所谓‘联絡人’‘争取人’的勾当。”
『近現代辞源』（2010）

以上の辞書記述によると，『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』（2007）に，「発展」が『日本国語大辞典』第二版の初出例（1901）より，さらに古い例として 1878 年頃フェノロサの『政治学講義』が挙げられる。中国の近現代語辞書には，『漢語大辞典』よりも古い例が見当たらなかった。

2-3　漢籍仏書における「発展」

「発展」のさらに古い時代の例を検索するために，台湾中央研究院・歴史語言研究所による『漢籍電子文献資料』[7]，『国学大師古籍全文検索』[8]，国立国語研究所による『日本語歴史コーパス』，国文学研究資料館電子資料館『日本古典文学大系本文データベース』・『噺本大系本文データベース』，『SAT 大蔵経テキストデータベース 2018』を使用した。その結果であるが，『SAT 大蔵経テキストデータベース 2018』では，以下のような 2 例がヒットした。

（6）云縁生即是影像生也。以内外相因。更相分発展轉相見故。諸尊即是我。我亦即是諸尊。
「大毘盧遮那成佛経疏」　第 19 巻
（7）可謂軍荼利別尊法発展増備之極。密藏中不可闕者矣。
「西方陀羅尼藏中金剛族阿蜜哩多軍吒利法」　第 21 巻

例（6）に，「発」と「展」はまだ字の単位で理解して，一語としてまだ確立されていない。例（7）には，「発展」が「西方陀羅尼藏中金剛族阿蜜哩多軍吒利法」の「序」に挙げられていた。この「序」は大正元年（1912 年）に書かれた内容である。従って，漢籍仏書には「発展」に関する例はないと考えられる。

2-4　明治初期教科書における「発展」

『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』に「発展」の早期用例は社会政治学の講義に使われていたことが見て取れる。さらに調査すると，明治初期の政治学著作，中村正直訳『自由之理』

---

[7] 歴代の漢籍 1,258 種を収録し，延べ 718,130,000 字に及ぶ漢籍全文資料庫である。
[8] 史，子，集，詩，儒，易，芸などの部門に渡って，20,000 種以上の漢籍を収録し，延べ 240,000,000 字に及ぶ漢籍全文資料庫である。

（1872 年）に，「発展」が使用されていた。（引用の際，オコト点を略す）

(8) 人世之大道理何為最要曰宜使人々得自由発展其才性自抉手眼另開生面千殊萬異各呈其美則交相資益者日夠而福祚日崇矣〇人々有己性靈萬異而萬不同各発達其獨有者特異者人生之景象所以日進而不已也若乃以一定之規矩教道強同兆民之心思言行禁新異非常之事則人智不復牖世道不復上歸于固陋頑愚而已矣。

『自由之理』5 巻-1（1872）

同頁に英語の説明も付いている。

The grand leading principle, towards which every argument unfolded in these pages directly converges, is the absolute and essential importance of human development in its richest diversity- WILHELM VON HUMBOLDT: sphere and duties of government.

『自由之理』5 巻-1 （1872）

これらの内容は『自由の理』5 巻の 1 の三頁目にある。上は英文で，下は漢文である。漢文は左右に分け，中央に「自由之理」の字を大きめに書いた（原文は付図に参照）。その英文と漢文は完全には対応しておらず，漢文の「人々得自由発展其才性」は英文の「human development」に対応すると考えられる。

また，「発展」は近代における使用実態をより明らかにするため，『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』（2007）に取り上げられた『政治学講義』（1878），『愛国志林』（1880），『愛国新誌』（1880-1881），『社会進化論』（1883），『増補社会進化論』（1887）を通読し，「発展」を含む以下のような例も見られた。

(9) 此ノ二事ハ社会ノ既ニ充分発展シタル後ニ非ザレバ起ラザル者タル也

『政治学講義』第三回 フェノロサ 訳者不詳（1878）

(10) a 凡ソ人間ノ精神能力ヲシテ十分ニ発展セシルコトナク

b 随テ天地萬事ニ渉ル所ノ精神心意ヲモ発展スルニ適シ

c 蓋シ人間ハ自由ノ動物ニシテ心思アリ智慮アリ，又想像力アリ，故ニ才性ノ発展甚タ少キ者雖モ然カモ禽獣ノ如ク一一物ニ觸レ事ニ當リテ稍ク其感覚ヲ起スニ止リ

d 彼の事物に掩蔽せらるることなく，奪魂せらるることなくして天然の心智を発展すべきのみ

『愛国新誌』（1880-1881）

(11) a 人術少しも進歩せず社會從て発展する能むさるも理の當然のミ

b 是等の事情を以て考ふるときい社會発展の原因い

c 人民の惑溺殊よ深く，社會発展の際よ於ても，鬼神敬信の念い依て以て

『社会進化論』社会学巻一　有賀長雄　(1883)

(12) a　有機体い構造の発展する者なり
　　b　有機体の構造発展い督制供給分配の三系を生し，各系亦一々発展するに出つる者なり
　　c　次に其発展して族制，神祇，儀式，政治，産業，貿易，等の事あり，又此等の物一々発展して族制の中に父子夫婦の別

『増補社会進化論』　有賀長雄　(1887)

例 (9)-(12) から見ると，「発展」は『自由之理』，『政治学講義』，『社会進化論』，『増補社会進化論』のような明治初期の社会政治学の教科書や『愛国新誌』のような自由民権雑誌に使用されていた。その中の『自由之理』に記されている「発展」は筆者が調査した範囲においては「発展」の初出例であり，「development」に対応する訳語として使用されている。

2-5　明治期の国語辞書漢語辞書における「発展」

「発展」は明治初期に教科書での使用が明らかになっているが，同時期に刊行された国語辞書と漢語辞書[9] を調べた結果，この語は登録されていなかった。調査した資料は以下の通りである。

漢語辞書

『新令字解』1868，『漢語字類』1869，『校正増補漢語字類』1876，『新撰字解』1872，『布令字辨』1872，『増補布令字辨』1874，『広益熟字画』1874，『御布令必用書引新撰漢語字引大全』1875，『初学必携大全漢語字書』1876，『御布令新聞漢語必用文明いろは字引』1877，『雅俗漢語字引大全』1885，『新撰歴史字典』1894，『明治漢語字典』1896

国語辞書

『語彙』1871-84，『漢英対照いろは辞典』1888，『ことばのはやし』1888，『日本大辞林』1894，『和漢雅俗いろは辞典』1888-89，『日本辞書言海』1889-91，『日本大辞書』1892-93，『日本新辞書』1895，帝国大辞林 1896，『日本新辞林』1897，『ことばのその』1885，『増訂二版和漢雅俗いろは辞典』1892-93

2-6　19 世紀英和辞書・英華辞書の訳語

先に見たように，明治初期の教科書に「development」の訳語として「発展」が用いられたが，

[9] 幕末，明治開化期に，漢字漢語の使用が盛行していた。この時期に，漢語を理解しようとする要求に応じるため，多数の漢語辞書が発行された。

同時期の英和辞典・英華辞典でのこの語に対する解釈は，以下のようである。

1872『英和語林集成』再版（英和の部）

Develop：Arawasu, skasu, toku, hiraku

1886『英和語林集成』三版（英和の部）

Develop：Arawasu, toku, hiraku

Development：Kaihatsu, hirake, araware

柴田昌吉・子安峻 1873『英和字彙：附音挿図』

Develop：表（アラ）ハス。発（アバ）ク。顯出（アラハシダ）ス。発覚（ミアラハ）ス。

Development：表明（アラハシ）。発開（アバキ）。発覚。

柴田昌吉・子安峻 1882『増補訂正英和字彙』第二版

Develop：表ハス。発ク。顯出スル。発覚スル。

Development：表明。発開。発達。開達。啓発。発育。亢進。

西山義行 1884『英和袖珍字彙』

Develop：ミアラハス。トク。アスク。

Development：ミアラハスコト。ヒロゲルコト。ハツカク。

イーストレーキ著棚橋一郎訳 1888『和訳字彙：ウェブスター氏新刊大辞書』

Develop：表ハス。発（アバ）ク。発覚ス。

Development：発育，発達，現出「生」啓発；「哲」発達。

羅存德（Wilhelm Lobscheid）1866-69『英華字典』

Develop：表，発現，顯出，露出，顯露，発露

Development：表明者，顯出者，発露，発洩，開発者

廣其照 1899『英華字典集成』

Develop：表，露顯，発現，発露

Development：表明，発露，発洩

このように，同時期の英和辞書や英華辞書には「発展」は登録されていない。このことからも『自由之理』を始めとする明治初期の教科書における「発展」は，当時の日本で造語されたものである可能性が高いと考えられる。

3．「発展」の成立と定着

3-1 「発展」の成立

『自由之理』において「曰宜使人々得自由発展其才性。自抉手眼。另開生面。千殊萬異各呈其美。」は漢文であり，この漢文を読み下すと，「其美を呈させる。宜しく人々を得せ自由に其才性を発展させる。手眼を自ら抉らせる。生面を另に開かせる。千殊萬異。」となる。また，同教科書に，以下のような例も見られた。

(13) a 天賦ノ才能ヲ十分完全ナルマデニ発出顕露シ極メテ崇高極メテ和平ナルトコロニ至ント欲スルナリ

b 人ノ性ハ一模型ニ隨テ造レル一機関ノ如キモノニアラズ前定ノ規矩ヲ死守シ運動作用ヲ為スモノニアラズ樹木ト雖ドモ自己ニ具フル活底ノ勢力ヲ発出シ四方ニ舒展シ自由ニ暢茂生長セリ人

c 上帝種々ノ才性ヲ以テ人類ニ賦予シ玉フトイフコトヲ信ジタランニハソノ才能ヲ培養シ開展スル所以ノ功ヲ盡サザルベカラズ

d コレタダ人々ヲシテ自由ニ本有ノ才性ヲ発出セシムル

『自由之理』5 巻-3

(14) 後來ノ備慮ナシトイヒ自ラ照顧敬重セズトイヒ及ビ自ラソノ才ヲ発顯セズトイヘル如キコト

『自由之理』5 巻-4

(15) 故ニソノ人民才智ノ開展（ノビル）スルコト速ナラズ心靈ノ崇（タカキ）高ニ進ムコト遲シ

『自由之理』5 巻-5

例 (13)-(15) のように，「才，才性，才能，人ノ性，才智」のような言葉は「発出，発顯，開展，発出顯露，発出シ四方ニ舒展」のような言葉とも共起することがしばしば見られた。これによって，「発展」は「発出，発顯，開展，発出顯露，発出シ四方ニ舒展」と同じような意味で使われたと考えられる。

また，「発」と「展」について，「発：⑩のびる。のべる。」（『大漢和辞典』7 巻：1218），「展：②のべる。③のびる。」（『大漢和辞典』5 巻：155）のように，両方の和訓「のびる」「のべる」があり，「発」と「展」は同義語とも見られる。陳（2011：69）は，「並列構造による造語の任意性において日本語が中国語より発達していることがよくある」と指摘した一方，「正直，偉大，幸福，森林」のような並列構造も取り上げた。「発展」という漢語の語構成から見ると並列的な構造であるため，「発展」は中国語より日本語としては造語しやすいと推測できるであろう。また，「発展」は「発～」型の語彙の一つとして位置付けられるが，明治期に「発～」型の語の発達もその一つの要因と考えられる。

3-2　20 世紀初期に英和和英辞書における「発展」

20 世紀に入ると，日本の英和和英辞書や哲学辞書に，「発展」が登録されるようになった。その登録状況を，表 1 に示す。

表 1　20 世紀初期に英和和英辞書，哲学辞書における「発展」

刊行年　著者　辞書名	辞書記述（一部抜粋）
1902 神田乃武 『新訳英和辞典』	Develop　①啓ク，啓発ス，発開ス。②発達セシム，伸暢セシム。— vi①発展ス，発達ス，発生，発達，発育，進化。
1910 上野陽一ほか 『学生英和辞典』	Develop　1. 展開せしめる，伸暢せしめる　2. 発達せしめる，発展せしめる，開発せしめる Development「名」1. 発達，開発，発展，開展，2. 発生，発育
1911 井上十吉 『新訳和英辞典』	Hatten（発展） n. Expansion; development.— suru, vi. To expand; develop.
1912 井上哲次郎 『哲学字彙』三版	Development　発達，発展，開展，展舒，進化 Evolotion 進化，発達　mental evolution 心的発展，精神発達
1918 齋藤秀三郎 『熟语本位英和中辞典』	Develop 【他動】（巻き込んでであるものを） 啓く，啓発する。（より）開発する，発達せしむ，発展せしむ，発現せしむ Development 【名】発達，発育，開発，発展，発現
1919 井上十吉 『井上英和大辞典』	Develop　①発展せしむる，啓発する，開発せしむる。②発達せしむる，進歩さす。③進化せしむる，展開せしむる。 vi①発展する。開発する。進化する。進歩する。②開ける。顯はる。 Expand　①展開する。②十分に説明する，十分に書き記す。③発展せしめる④膨脹する，伸張，伸長，延長する③擴がる，大きくなる。

表 1 によると，「発展」が最初に「develop」の訳語として登録された辞書は，1902 年神田乃武による『新訳英和辞典』である。この辞書の「緒言」に「本書の編纂に関し横井時敬は主として農業上の語の附譯を擔當し藤岡市助は主として電氣學上の語の附譯を擔當し有賀長雄は主として法律政治経済外交哲学心理教育美術上の語の附訳を担当し平山信は主として天文学上の語の附訳を担当したり。」との記述がある。有賀長雄は『社会進化論』（1883）に「社会発展」を何度も使用したことが前の節からわかり，「発展」をこの辞書に登録する際の編纂者の一人として有賀長雄が関係したと考えられる。「発展」が『新訳英和辞典』（1902）に登録されて以来，そのほかの英和辞典も一般的に登録されるようになった。また，「発展」が哲学用語辞書『哲学字彙』への登録は 1912 年の三版を待たなければならなかった。

3-3　『日本語歴史コーパス』における「発展」

以上の記述から，「発展」は明治初期の新造語であることがわかり，明治期から大正期までの使用状況について，国立国語研究所による『日本語歴史コーパス』を利用し，調査していく。調査の結果は，十年毎に区切り図 1 に示す。

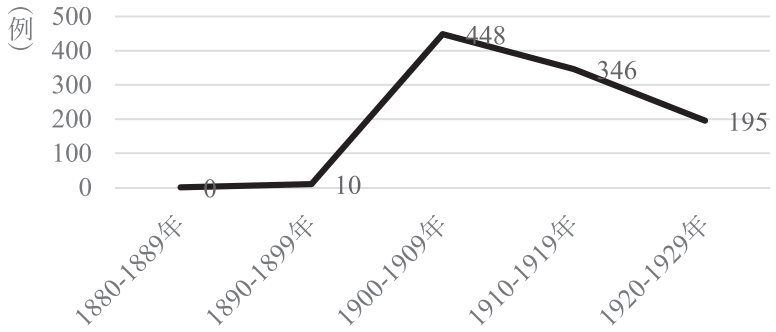


図 1 『日本語歴史コーパス』における「発展」の使用状況

「発展」が明治初期に造られた語だが，図 1 によると，1890 年までは，「発展」は使用されていなかった。1890–1899 年になると，「発展」がだんだん使用されるようになり，1900–1909 年の 10 年間に，「発展」の使用率が大幅に増加し，448 例に至った。また，1920–1929 年の 10 年間に，その使用例が前の十年より減少したが，高い使用率を保っている。

次に，『日本語歴史コーパス』の中にある『太陽』雑誌における「発展」の使用状況を調査していく。この『太陽』雑誌は 1895 年，1901 年，1909 年，1917 年，1925 年の 5 年間のデータを収録し，毎年データの量はほとんど同じであり，比較的な均衡的コーパスである（田中 2005）。調査の結果は図 2 に示す。

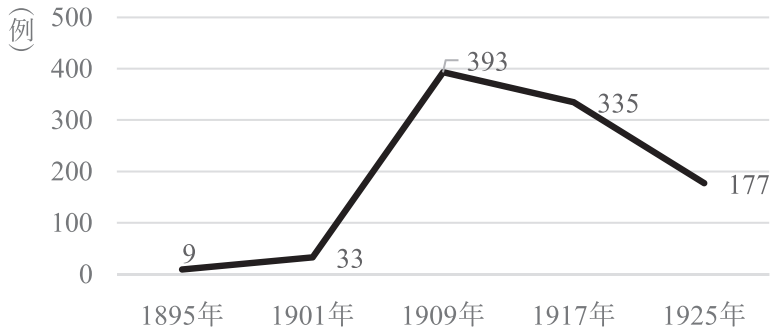


図 2 『太陽』における「発展」の使用状況

図 2 と図 1 と比較すると，両方の上昇率が一致することが見て取れる。「発展」は 1895 年に，9 例が使用されたが，1909 年になると，その数がピークになり，393 例に至った。その中に，「発展」がよく「国力，国運」のような言葉と一緒に使用され，これは明治後期に日本は対外的な拡張主義を関係があると考えられる。

4．中国語における「発展」の受容

4-1　20 世紀の英華辞書における「発展」

20 世紀の英華辞書を調べたところ，顔惠慶『英華大辞典』（1908），赫美玲『官話』（1916），黄士復ほか『増訂綜合英漢大辞典』（1948）に「発展」が登録されていた。その訳語の使用状況を表 2 に示す。

表 2　20 世紀の英華辞書における「発展」

刊行年　著者　辞書名	辞書記述（一部抜粋）
1908 顔惠慶『英華大辞典』	Scope：I have given too much scope to my ideas of religion　余対於宗教之思想発展過広矣 Evolution：the act of unfolding or unrolling　展開，放発；hence，the process of growth　開発，発展，発達；development　発達，化成，変化
1916 赫美玲（Hemeling, Karl Ernst Georg）『官話』	Resource：Development of the rich natural-s 開闢天生豊厚的利源　発展天然之豊厚財源 Trade：To develop-　発展商務 Develop：発展[新] Development：economical-　経済発展 Evolve：（to unfold）　把…発展開 Malleability：発展性，展性[新]，可捶性[部定]
1948 黄士復ほか『増訂綜合英漢大辭典』	Develop【他動】展，開，啟発（捲裹物）；（轉為）開発，使発達，使発展，使発現【自動】発達，発育，生発；発展，発現，発露 Development 【名】発達，発育，開発，発展，進化；発現，表出。Development commission，（英国之）発展委員会

1908 年顔惠慶の『英華大辞典』では，「発展」が「Scope」や「Evolution」の訳語として登録されており，1916 年赫美玲（Hemeling, Karl Ernst Georg）の『官話』においては，「develop」「development」の訳語として，登録されている。また，沈（2008：201-202）は『英華大辞典』，『官話』，『総合英漢大辞典』について，以下のように記述している。

『英華大辞典』巻頭に「是編採用諸書。暨所参考。不下数十百種。有為中国教育会者。有為江南製造局本者。有為厳氏所著本者。有為英和字典本者（訳：編纂に当たって，引用，参考にした本は，数十百種類を下らない。中国教育会のもの，江南製造局のもの，厳復の著書，英和字典などである）」

『官話』の preface に「Moder terms-largely drawn from old Chinese and the Japanese language-with the character 新（hsin）. it should be noted that many of these are now in common colloquial use.」

『総合英漢大辞典』に「『日本模範新英和大辞典』（『大増補模範英和辞典』1916，神田乃武ら編），『井上英和大辞典』（『井上英和大辞典』1915，井上十吉），『斎藤英和中辞典』（『熟語本位英和中辞典』1915，斎藤秀三郎）を参照したと明記している」

つまり，『英華大辞典』『官話』『総合英漢大辞典』の編纂では日本語の辞書を参照しており，「発展」を英華辞書に登録する際にも日本語辞書を参照したと考えられる。

また，日清戦争の敗北をきっかけに，中国は日本に対する関心が高まり，清国は留学生を日本に派遣するようになった。これらの留学生たちが日本にいる間に，政治，経済，哲学，法律などの専門書を日本語から訳出し本国に送りこんだ。その際，訳語は新たに作るより，日本製のものを継承したケースが多い（沈 1995：3）。それらの新語，訳語を分かりやすく説明する用語集や新語集が出版された。その中に，留日学生汪荣宝と葉瀾共編『新爾雅』（1903）に，「釋教育」の欄に

「従教育上推究其作用概括事物之要點。而発現新理者謂之発展教式。」「精神上有特殊之性質。教育家務須発展之。匡正之。以養成其獨立之人格者。謂之個性」

のように「発展教式」や「発展」が用いられた。

20 世紀の中国の国語辞書，陸爾奎編『辞源』（1915，1920），方毅編『辞源』（1933），商務印書館編集部編『辞源』二版（1988），『中華大字典』（1935），『最新支那語大辞典』（1935）を調べたところ，「発展」はどの辞書にも登録されていなかった。しかし，『辞源』（1932 年編丁種続編国難後第 1 版，1933 年編続編丁種一冊）には，「発展教式」が登録された。その記述は以下のようである。

【発展教式】教授法式之一。教授時由推究之作用。該括事物之要點。而使其真理法則豁然著明。謂之発展教式。如教授修身。由實例以発見道德上之規則。教授国文。由文字中抽取文法。教授美術。由実地之問題発見其法則等皆是。

また，王雲五『王雲五大辞典』（1939）[10]，『王雲五小辞典』第二次増訂（1948）[11] に，「発展」は見出し語として登録された。その記述は「発展：発達展揚」のようである。『王雲五大辭典』

[10] 『王雲五大辞典』初版は 1930 年である。北海道大学附属図書館を利用し，検索できたのは商務印書館 1939 年版である。

[11] 『王雲五小辞典』初版は 1931 年である。北海道大学附属図書館を利用し，検索できたのは商務印書館 1948 年第二次增訂上海第三九版である。

（1939）の「序」に「本書的目的在供高中以下高小以上程度一般人的参考」と記述され，『王雲五小辞典』（1948）の「序」に「在本書内，我仍然注重上述的三条件，而以小学生的種種読物為対象，（略）凡小学生読物中一切常見的詞語，莫不捜羅在内。因此本書分量雖然僅及大詞典五分之一，然於小学生読書求解的困難，已完全給與相当的解決。」と記述されていた。つまり，この時期に，「発展」が中国の教科書に一般的に使われるようになったと考えられる。

「発展」が正式的に中国の国語辞書に登録されたのは，1936 年全国国語教育促進会審詞委員会編『標準語大辞典』である。その辞書記述には「発展：拡大勢力範囲」である。

4-2 『近代報刊数据庫』における「発展」

近代中国語における「発展」の使用状況について，さらに『近代報刊数据庫』[12] を利用し調査する。その結果，『近代報刊数据庫』の中での「発展」の初出例は 1902 年の『新民叢報』である。1902 年『新民叢報』の第 3 号，第 11 号に，「発展」を用いた 2 例がある。その 2 例は以下の通りである。

（16）今日支那渇望教育機運殆将発展我国先事而制其権是不可失之機也

『新民叢報』第 3 号　1902 年

（17）此二書皆据史上之事実敘萬国文明之変遷已明歴史発展之由来故最重事実之原因結果

『新民叢報』第 11 号　1902 年

『近代報刊数据庫』には，20 世紀前の新聞雑誌も多数収録されているが，その中に「発展」は見当たらなかった。『新民叢報』は，1902 年に梁啓超が主筆し，横浜で創刊された雑誌である。また，李（2018：314）に，「梁启超在対日语作出積極評価的同時，亲自在所著的文章中使用了大量的日语借詞」（筆者訳：梁啓超は日本語に積極的な評価をするとともに，自分の文章にも多数の日本語借用語を使用した）との指摘があり，「発展」の使用は日本と密接な関係があると考えられる。

1903 年になると，「発展」が『新民叢報』にだけではなく，『大公報』（天津版），『湖北学生界』，『浙江潮』，『国民日日報彙篇』の中にも確認された。『湖北学生界』と『浙江潮』はそれぞれ湖北省，浙江省の留学生たちにより 1903 年に，日本の東京で創刊されたものである。

1903 年の『湖北学生界』に，「発展」が含まれた 8 件の記事をヒットした。そのうちの 2 件，「世界政策」「内治外交二大争斗時代」の記事に，「発展」が合計 33 回に使用されていた。その

[12] 香港で刊行された『遐邇貫珍』（1853-1856），北京で刊行された『順天時報』（1901-），天津で刊行された『大公報』（1903-），上海で刊行された『申報』（1872-1949）など，清末から中華民国初期にかけての新聞雑誌資料庫である。

内訳は，1903 年第 1 号の記事「世界政策」に 8 回，第 6 号の記事「内治外交二大争斗時代」に 25 回である。また，「世界政策」という記事の題目の後ろには，「訳太陽報語気悉照日人原著」と明記されており，一方「内治外交二大争斗时代」という記事の題目の後ろにも，「訳太陽報」と明記されていた。つまり，両方の記事は『太陽報』から訳したものである。この『太陽報』は 1895 年から 1928 年にかけて，日本の博文館が刊行した日本初の総合雑誌『太陽』であると考えられる。

また，1903 年の『浙江潮』に，「発展」が含まれた 8 件の記事がヒットした。そのうちの 3 件は，「東報時論」欄と「東報隨訳」欄からの記事である。その内訳は，「発展」が第 1 号「東報時論」欄の記事「世界政策」が 10 回，第 6 号「東報時論」欄の記事「経営上之憂患日本当発展国力於海外」が 3 回，第 7 号「東報隨訳」欄の記事「東欧問題與極東」が 2 回，合計 15 回に使用されていた。また，記事「世界政策」の著者は日本人の渡邊国武であると明記されている一方，記事「東欧問題與極東」には「訳国民新聞」と明記されていた。この『国民新聞』は，日本人徳富蘇峰が 1890 年に創刊した日刊新聞であると考えられる。

『大公報』（天津版）は，1902 年に上海で創刊されたものだが，1903 年 4 件の記事の中に，1 件が「日本大阪朝日新聞」から翻訳されたのもので，2 件が日露戦争の時に天津で発行された邦字新聞『北清新報』から翻訳されたものである。それぞれ 1 例ずつを取り上げる。

（18）北清新報云伝聞前次旅順会議之結果俄陸相庫楽巴根與蔑伊烏総督所謂俄国之武斷断等皆謂日本之陸軍（略）揮其充分手段発展無余地不可強為戦争云

『大公報』第 423 号　1903 年

（19）春秋万法記於始幾何万象起於點人生百年立於幼幼稚時代之根基不善則長大之劣萠之根基何以善能即生初之霊機発展之拡充之則善雖然襁褓之兒

『湖北學生界』第 6 号　1903 年

（20）国際礼譲之觀念日益発展而国際刑法亦以利害共同為目的

『浙江潮』第 8 号　1903 年

（21）美国脫去孟祿主義而採用帝国主義以來海事之発展亦不可言

『国民日日報彙篇』第 3 集　1903 年

以上の分析から見ると，「発展」は最初は中国の雑誌，『湖北学生界』『浙江潮』で集中的に使用されていた。また，「発展」が頻繁に使用された記事の著者は日本人であり，記事のソースも日本の新聞雑誌からである。

1903 年以後になると，「発展」がさらに，『東方雑誌』『民報』『大同報』『神州女報』『中国新報』『四川』『国風報』『図書日報』『婦女時報』『庸言』『正誼』『繁華雑誌』『大中華雑誌』『新青年』『進歩』などの刊行物に取り上げられた。これらの刊行物は，ほとんどは革命の宣伝或いは

社会の改善を提唱するものである。つまり「発展」はよく政治関連のものに使用されていた。

次に，近代中国国内に影響力があった総合刊行物『申報』[13]（1872–1949）を対象に，「発展」の使用状況を考察していく。その使用状況を図 3 に示す。

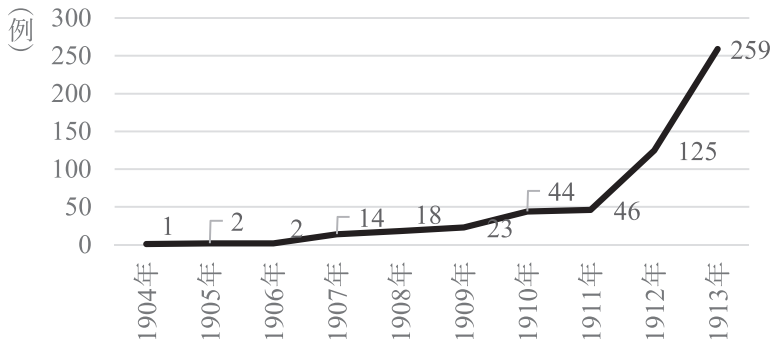


図 3 『申報』における「発展」の使用状況

『申報』は，1872 年から発刊したものである。しかし，「発展」は 1904 年から，『申報』に使用されたことが図 3 に見て取れる。よって，20 世紀前に「発展」は一般的には使われていなかったことが考えられる。「発展」は 1904 年に初めて使用されてから，毎年右肩上がりに上昇していった。

1912 年になると，「発展」の使用例が急増し，その後も高い上昇率を保っている。1912 年に，「発展」の使用が急増した原因は重大な歴史事件，中華民国の誕生と考えられる。1912 年の用例を調べると，「発展」が度々「党務，党勢，政党，国，国力，国家，新民国」のような言葉と共起し，国や政党のような組織が規模を拡大するという意味を持っていた。また，「発展」が「経済，国際貿易，農林，生産，実業，市場，銀行」のような国民生活と密接な関係がある農林工商の言葉と「航海，航路」のような国家のインフラ整備と共起する。それ以外に，「公權，民權，農林種植法，司法」のような法律や国民の権利を表す言葉とも共起する。これらのものは，いずれも国や政党のような組織を作るために，欠かせないものである。「発展」がこの時期に頻繁に使われたことが，その後中国での普及にも大きな影響をもたらしたと考えられる。

以上から見ると，「発展」が 1903 年に，『湖北学生界』『浙江潮』での頻繁使用と 1912 年中華民国成立の時の頻繁使用によって，中国において一般的に使用され，その後も英華辞書や国語辞書にも登録されるようになったと考えられる。

---

[13] 朱（2018）では，「申報 1872 年創刊于上海，1949 年停刊，77 年間共出版了 27,000 期，是中国近代創办最早，存続時間最長和最具影响力的中文日報」と指摘している。

5．まとめ

本稿は「発展」が日本での成立と中国語への受容について考察を行われた。結論をまとめると，以下のようになる。

一，「発展」は日本人による造語である。「発展」の初出は，1872 年中村正直による『自由之理』であり，最初に「才性を発展させる」「心智を発展する」「社会を発展する」のような形式で使用された。また，「発」と「展」両方は同義語であるため，日本語として造語しやすいと考えられる。

二，「発展」は「日本語借用語」で，「日本語借形語」である。20 世紀初期に，留日学生たちにより創刊された刊行物や同時期の英和辞書を参照した英華辞書を通して，「発展」が中国へ輸入された。

三，1912 年に中華民国の誕生によって，「発展」が頻繁に使用され，このことは「発展」が中国での使用や国語辞書での定着に大きな影響を与えた。

（ひつ　あり・言語文学専攻）

参考文献

日本語資料

『愛国志林』（1880）明治文化全集

『愛国新誌』（1880-1881）明治文化全集

佐藤亨（2007）『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』明治書院

沈国威（1995）『「新爾雅」とその語彙 ── 研究・索引・影印本付』白帝社

沈国威（2008）『近代日中語彙交流史 ── 新漢語の生成と受容』笠間書院

沈国威（2019）『漢語近代二字詞研究 ── 語言接触与漢語的近代演化 ──』華東師範大学出版社

惣郷正明（1986）『明治のことば辞典』東京堂

田中牧郎（2005）「言語資料としての雑誌『太陽』の考察と『太陽コーパス』の設計」国立国語研究所編『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究 ──「太陽コーパス」──』

陳力衛（2011）「「新漢語」とはなにか ── 漢籍出典を有する語を中心に ──」『言語変化の分析と理論』おうふう

陳力衛（2019）『近代知の翻訳と伝播 ── 漢語を媒介に ──』三省堂

フェノロサ著　訳者不詳（1878）『政治学講義』第三回　日本近代思想大系

米川明彦（2002）『明治・大正・昭和の新語流行語辞典』三省堂

中国語資料

常暁宏（2014）『鲁迅日語中的日語借詞』南开大学出版社

黄河清（2010）『近現代辞源』上海辞书出版社

李运博（2018）『近代汉日詞彙交流研究』外语教学与研究出版社

沈国威（2019）『漢語近代二字詞研究 ── 語言接触与漢語的近代演化』华东师范大学出版社

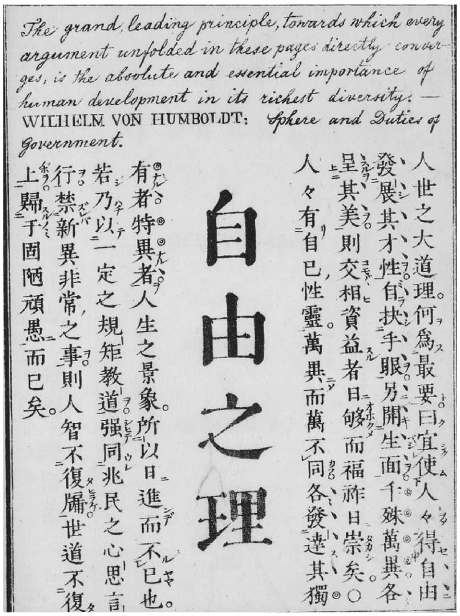
辞書

『王雲五新詞典』（1965）王雲五　商務印書館
『王雲五大辞典』（1939）王雲五　商務印書館
『漢語大辞典』（1986-94）羅竹風ほか　上海辞書出版社
『辞源』（1915）陸爾奎　商務印書館
『辞源』（1920）陸爾奎　商務印書館
『辞源』（1920）丁種上・下　方毅ほか　商務印書館
『辞源』（1932）丁種続編国難後第 1 版　方毅ほか　商務印書館
『辞源』（1933）続編丁種一冊　方毅ほか　商務印書館
『標準語大辞典』（1936）全国国語教育促進會審詞委員會編　商務印書館
『大漢和辞典』（1984-86）諸橋轍次　大修館書店
『日本国語大辞典』第二版（2001）日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部編　小学館

データベース

『近代報刊数据庫』https://www.neohytung.com（2020 年 08 月 10 日最終アクセス日）
国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp（2020 年 08 月 10 日最終アクセス日）
国立国語研究所『日本語歴史コーパス』https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/（2020 年 08 月 10 日最終アクセス日）
東京学芸大学附属図書館　https://library.u-gakugei.ac.jp/digitalarchive/meijisearch.html（2020 年 08 月 10 日最終アクセス日）

付図


The grand leading principle, towards which every argument unfolded in these pages directly converges, is the absolute and essential importance of human development in its richest diversity: —
WILHELM VON HUMBOLDT: Sphere and Duties of Government.

自由之理

人世之大道理。何爲最要曰宜使人々得自由發展其才性自扶手眼另開生面千殊萬異各呈其美則交相資益者日夥而福祚日崇矣。○人々有自己性靈萬異而萬不同各發達其獨有者特異者人生之景象。所以日進而不已也。若乃以一定之規矩教道强同兆民之心思言行禁新異非常之事則人智不復牖世道不復上歸于固陋頑愚而已矣。

自由之理 5 巻-1